

医療

歯の欠損は要注意!!

シリーズ

歯科治療最前線

悪影響につながる歯の欠損放置

「歯の欠損治療」

歯科治療の中には「補綴(ほてつ)治療」というのがあります。これは歯が欠けたり、歯を失った時にクラウンや入れ歯、インプラントなどの人工物で補う治療のことをいいます。つまり、歯の欠損治療も補綴治療の中に入るわけです。今回は「歯の欠損治療」を取り上げてみました。

抜けたままの放置は悪影響のみ

歯を一本でも失うと早目の欠損治療を受ける必要があります。(社)日本補綴歯科学会によると、歯が抜けた場合、周りの歯は見た目には何も変化がないように見えます。しかし、歯が抜けた直後から歯肉が痩せていきます。

専門医からのアドバイス Q&A



熊本インプラントセンター
添島 義樹 院長
日本口腔インプラント学会 専門医
厚生労働省指定 臨床研修指導医
中島学園非常勤講師

歯を何らかの原因で失った場合の治療としては、「ブリッジ」「入れ歯」「インプラント」が挙げられます。各治療法にはそれぞれ留意点があります。今回は「歯の欠損治療」について、添島歯科医院(熊本市桜町)の添島義樹院長に、お話を伺いました。

歯の欠損治療は3つの種類

Q 歯の欠損治療とは具体的にどのような治療でしょうか?

A 歯の欠損治療は歯の補綴治療の範囲に入りますが、その中にはいくつかの種類があります。具体的にはブリッジ治療、入れ歯治療(部分入れ歯、総入れ歯)、インプラント治療の3つが挙げられます。一番新しいのがインプラント治療です。

と、今まで支えになっていた歯を失ってしまったことにより、隣の歯が空いたスペースに倒れこんできたり、噛み合っていた反対側の歯が伸びてきたりします。

これらの結果によって、歯と歯の間にできた隙間や、歯がなくなった部分の歯肉には食べかすなどが溜まりやすくなり、周りの歯に虫歯や歯周病を引き起こす可能性が高まるということです。

また、一本でも歯を失うと、同じ食事をしてもほかの歯にかかる負担は大きくなり、次の歯を失うリスクも高まります。

さらに、多数の歯を失うと咀嚼の効率も悪くなるので、噛みやすい位置を探そうとして、それまでの顎の動きとは違う動き方になってしまうこともあるそうです。これがひどくなると、顎の負担が大きくなり、「顎関節症」と呼ばれる顎の病気にもつながる可能性があります。

治療法の選択は歯科医と十分相談を

Q その3つの治療の概要を教えてくださいませんか?

A ブリッジは歯が欠損している両側の健康な歯を土台にして、人工の歯冠を橋のようにして被せる治療で、一本から数本の歯の欠損に対応できます。入れ歯は一本から全歯欠損に対応できますが、部分入れ歯の場合は人工歯部分をバネで支える治療となります。インプラントは欠損部の骨に、主にチタン製の人工歯根を埋め込み、その上に人工歯冠を作る治療です。これも一本から全歯欠損まで対応できます。

それぞれに良い点、留意点がありますか?

Q それぞれの治療の良い点、留意点は何ですか?

A ブリッジは固定式のためしっかりと噛むことができ、違和感もあまりありません。しかし、支えとなる両側の健康な歯を削らなくてはなりません。部分入れ歯は歯を削らずにできますが、バネを支える歯の負担が大きくなることで、その

このような理由から、歯がなくなった場合は、放置せずに早目に治療を受けることが大事です。歯の欠損に対する治療には「ブリッジ」「入れ歯(義歯)」「インプラント」と3つの治療方法があります。

インプラント・ブリッジ・入れ歯の相違点			
	インプラント	ブリッジ	入れ歯
良い点	・固定式のため違和感がほとんどない ・噛む力が天然歯とほぼ同じ ・隣の歯を削る必要がない ・見た目も天然歯に近い ・長期間維持できる	・固定式のため違和感がほとんどない ・噛む力が天然歯に近い ・通院回数は平均3回~5回程度 ・審美的な材料(保険外)もある	・健康な歯を削る必要がない ・大きな欠損に対応できる ・費用が安価 ・通院回数は平均4~5回
留意点	・外科手術が必要 ・全身の病気で手術できない場合もある ・治療期間がやや長い ・保険適用外治療となる	・隣の健康な歯を削らなくてはならない ・歯の骨が次第にやせていく ・支えになる歯に負担がかかる	・装着後に違和感がある ・噛む力が天然歯の半分以下 ・バネにより隣の歯に負担がかかる ・食事中に外れる事がある

(ほかにも相違点がありますので歯科医に相談を)

医療 ニュース KUMAMOTO

南館の増築工事が完了

桜が丘病院

熊本市池田3丁目の桜が丘病院(堀田宣之理事長)はこのほど、南館の増築工事を完了した。

これは患者の療養環境の向上を目的としたもの。場所は既存病棟西側の旧病棟跡地。増築部分の建物は、鉄筋コンクリート造り3階建て、延べ床面積1916㎡。フロア構成は1階が病室、作業療法室、2階が病室と浴室、作業療法室、3階が作業療法室とテラス。病室はすべて個室で合計30床。

増築工事に伴い、既存病棟の工事に着手し、すでに新耐震基準を満たしていなかった部分の耐震補強工事は完了しており、患者一人当たりの床面積を広くするため6人部屋を4人部屋にリニューアルする。増築部分と合わせた南館の病床数は106床と変更はない。病院全体の病床数は221床。全体の投資額は約7億5000万円。

工事後は北館と南館の病棟構成を変更し、南館にうつ病専門病棟、新館に高齢者病棟、閉鎖病棟という構成になる。工事完成と病棟構成の変更は3月を予定している。

嘉島町の「嘉島クリニック」を建て替え、稼働を開始した。

嘉島町鯨の「嘉島クリニック」

これは患者数の増加に対応するため。場所は嘉島郵便局西側。敷地面積は359㎡、建物は鉄骨造り3階建て、延べ床面積は616㎡。1階は待合室、事務室、検査室、簡易リハビリ室などを設置した。

ベッド数は66床から74床に増やし、全自動の透折用監視装置を使用し、外来透折に特化した診療を行う。職員数は30人。

嶋田理事長は「当院の特徴である長時間透折治療を快適に受けてもらうために、快適かつ落ち着いた雰囲気づくりに努めます。常に適度な緊張感を持つことをモットーとし、人材開発や技術開発、電子化を進めていきます」と話している。



▲嘉島町鯨に建て替えた「嘉島クリニック」

病院敷地内に新立体駐車場

九州記念病院

熊本市水前寺公園の医療法人社団岡山会(岡山洋二理事長)が建設していた新しい立体駐車場がこのほど完成、運用を開始した。

場所は熊本水前寺公園郵便局の東側にある病院敷地内の水前寺公園参道側。敷地面積は約60㎡で駐車場の高さは約38m、幅が7m、収容台数は36台でハイパーカーにも対応している。同病院では本館東側の電車通り沿いにも64台収容の立体駐車場を備えているが、車高制限を超える車両については敷地内のロータリーに平置きしていた。

同病院では「より多くの車を収容できるように、来院しやすい環境を整えました。これからも患者さんが主役の、地域に密着した病院運営を行ってまいります」と話している。



▲完成した新立体駐車場(右)と病院本館(左)

日本がん治療認定医機構認定研修施設に

玉名地域保健医療センター

玉名市玉名の(社)玉名郡市医師会立玉名地域保健医療センター(赤木純児院長)はこのほど、一般社団法人日本がん治療認定医機構(東京都、今井浩三理事長)が定める「認定研修施設」に認定された。研修施設としては県内18番目で、県北では初の認定。

認定研修施設とは、がん治療認定医として不可欠な知識、技能、臨床的判断、心構えを修得する環境を提供する施設。がん患者の診療数の目標は年間754例。

また、同院ではこのほど、骨粗しょう症を診断する骨密度測定装置を導入した。極めて少ないX線を利用し、着衣のままスピーディーに測定できるというものの、骨粗しょう症の早期発見に役立てるといふ。

赤木院長は「手術、抗がん剤治療、末期患者のケアなどトータルで診療を行います。免疫治療にも対応できるように他の病院との提携も考えています。県北のがん診療拠点として、がん難民と呼ばれる方々を積極的に受け入れていきます」と話している。



▲導入した骨粗しょう症を診断する骨密度測定装置

(社)日本口腔インプラント学会指定研修施設
熊本インプラントセンター
添島歯科医院
熊本市桜町1-28-205 桜町センタービル2階
0120-354-508
http://www.soejima-sika.com/

嘉島町のクリニックを建て替え
嶋田病院
熊本市練兵町の医療法人如水会嶋田病院(嶋田英敬理事長)はこのほど、